

## 東京都知事選

セコぞえが、しぶとく粘ったが、結局は辞めざるを得なくなった。すると元大臣というのが売りの女が名乗りを上げる。国政の参議院選挙のさ中である。これひとつとっても非常識なうえ、能力がないのがわかっているのに、自民党議会連の説得にもかかわらず、強情にも出馬を主張する。「自由人ですから・・・」とは皮肉なのだが。能力はともかく、2年ごとに（長くても4年）権力者に尻尾を振って大臣のポストを手に入れてきた。「有能だから」ではない。女性の登用に乘じてである。少なくとも4～5回は所属する党を変えている。政治的信条などかけらもない。

安倍さんの時にも大臣になったが、実績といえるほどのものはない。安倍さんが、病気のために撤退した。・・・すると数年後、安倍さんが再登場する。このとき、恩を忘れ、次の権力者と思われる対抗馬に投票した。まさか安倍さんが、第二次安倍内閣を組閣するとは思わなかったのであろう。・・・当然冷や飯を食う羽目になった。あとは、賛成反対の時の員数合わせにしか使えない。

以前に書いたが、「ボクは安倍さんに期待している」といった時の周囲の反応のひどかったこと、涙もひっかけない、話題にもならなかったことと同じレベルの政治屋である。

安倍さんの任期は、あと少ししかないだろうが、明白な「憲法改正」を表面に押し出している。あるいは、もう少し長く総理を続けるかもしれない。となると、年齢的にも終わりである。「都民の目線で・・・」などというが、これでだまされるような東京都民がいるなら、全国の社会人から東京都民は馬鹿にされるだろう、なにせ猪瀬、セコぞえと続いた後だからな。当然第3次、第4次の安倍政権ではお呼びがかからない。よほどに有能ならともかく、たんにアナウンサーか何かをしていただけの知名度だけの人間だから、人気投票みたいなもの。権力追従の勘違い女と続けて選んだら、笑いものになるだけである。

それにしても、政治的信条もなにもない政治屋は、どうしてあんなに悪相になるのだろう。憲法改正を謳っている安倍さんの相と比べればよくわかるだろう。

対する野党たちは、主義主張も何もない。国政と都知事の業務さえ理解していないのではないか、という元ニュースキャスターに絞って乾坤一擲の勝負にでる。鳥越俊太郎であるが、家族は全員反対だという、さもあらん。（後述）

前回、元首相の小泉が同じく元首相の細川某を推薦した。細川の顔を見たとき、エッ、痴呆症の始まりではないか、と思った。・・・こんなのに数万票（数十万票？）も投票するのだから、いかに知名度が高くても、東京都民の知的レベルが疑われても仕方がない。・・・鳥越氏も、家族が猛反対するのは、自宅で、似たようなことが往々にしてあるからではないか。歳月人を欺かず。人寄せパンダじゃあるまいし、現に政策も何も語っていない。ただただ都知事になりたいだけで、国の方針に反対だから都知事になりたい、などとは片腹痛い。何の目的もないのは、寂しすぎる

一方の自民党推薦の候補者は、地味すぎて存在感がなさすぎる。

いずれにしても大騒ぎするほどの選挙じゃない。

言ってみれば、まるっきり芸能人の人気投票じゃないか。・・・AKB48の選挙とどこが違うのか？（ボクはずっとアカンベ・ヨンジュウハチと読んでいた。変わった名前をつけるなあ？）

直前になって、鳥越の旧悪露見。高齢者が期待していたらしいが、彼らにさえ、「政策がないじゃないか」などと突っ込まれるような候補者を野党連合は選んだのである。民主党と共産党が同じ候補者で納得する。

ひとりで頑張りお姉ちゃんも、話している間に論点がずれて、都知事の権限を理解していないことが露見する。

・・・末法の世の中だな。

2016.07.22.